

気付いた大切なこと

小四

わたしは小学校三年生のころ、人
生にとって大切なことに気が付きま
した。それは、「人はみんな同じで
はない」ということです。

学校には、いろいろな人がいます。
じゅ業中にずっと話をしている、先
生の話を聞かない人もいれば、静か
に先生の話を聞いている人もいます。
友達がたくさんいて、にぎやかな人
もいれば、休み時間でも一人で本を
読んでいる人や、それが苦手な人も
います。でも、それぞれちがつてい
て、それぞれにいいところがあると、

わたしは思います。

三年生のころ、わたしはあるクラ
スメイトのことを気にして見るよう
になりました。その子は、いつも静
かで、あまり友達としゃべることが
ありませんでした。はじめのうちは、
「さみしくないのかな。」と思った
り、「なんでみんなと遊ばないんだ
ろう。」と不思議に思ったりしてい
ました。

でも、あるとき、その子が図工の
時間に作った作品を見て、わたしは
びっくりしました。とてもていねい
で、色づかいも工夫されていて、わ
たしにはまねできないようなすてき
な作品でした。先生も「これはよく
考えられているね。」とほめていて、

わたしは「この子には、こんなすごい力があるんだ。」と気が付きました。

それから、わたしはその子のことをもっと知りたいと思い、勇気を出して話しかけてみました。すると、少しはずかしそうにしながらも、やさしく答えてくれました。話してみると、お気に入りのキャラクターのことなどで、とても話がもり上がりました。思っているより明るく元気な子だと知ることができました。わたしは、「今までこの子のことを知らなかっただけなんだ。」と思い、少しはずかしい気持ちになりました。この出来事があってから、わたしは「ちがいは悪いことじゃない。む

しろその人のいいところなんだ。」と考えるようになりました。もし、みんなが同じようにふるまっていたら、学校は同じことだけをしていたら、学校はつまらなくなるし、成長するチャンスもなくなってしまうと思います。

人にはみんな「個性^{こせい}」があります。明るくて元気な人もいれば、おとなしくて考えるのが上手な人もいます。頭^{かぶ}のよさや運動ができることなく、人にやさしくできることやしっかり話を聞けることだって、大切な力です。そうしたちがいを大切にすることが、人権^{じんけん}を守るということではないかとわたしは思います。

これから先、わたしはいろいろな人に出会おうと思います。その中には、

自分と合わないと感じる人や、考え方がちがう人もいるかもしれません。でも、そういうときこそ、「この人にもきつとすてきなところがある」と思える人になりたいです。そして、自分とちがう人のことも、同じように大切にしたいと思います。